

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

拡大する医療ニーズに応じて“進化”

③7 鎌ヶ谷総合病院 (千葉県鎌ヶ谷市)



デザイナーズマンションのような外観

軽症でも安易に救急外来を受診する「コンビニ受診」が医療崩壊の一因とされる中、鎌ヶ谷総合病院は「命だけは平等だ」の理念に基づき、「救急患者を絶対に断らない」を基本方針に掲げる。救急診療は24時間、365日体制。山本穰司院長は「病気で悩む方には無条件で手を差し伸べ、地域に対しては病気予防の教育を行う。それが私たち本来の役割です」と話す。

最寄り駅の新鎌ヶ谷駅は東武野田線、新京成線、北総線の3線が交わる好立地。周辺は鎌ヶ谷市の中核エリアとして開発が進む。患者は市内

だけでなく、柏、白井、松戸など隣接市からも訪れる。外来は1日平均700～800人という。

鎌ヶ谷市では救急患者を受け入れていた病院が1992年に市外に移転後、市民の約7割が市外の医療機関に救急・入院を依存していた。そこで、同市は「民設民営」方式で地域中核病院を公募。同病院が選定され、2007年に開院した。地上10階、地下1階建てで、一般病床は248床。建物の構造は患者や職員の導線の良さを考えて十字型にした。階段の手すりなどに付けた点字は東日本大震災の発生時、視覚障害者の避難誘導の際、役に立った。



シンプルで落ち着いたエントランス



開放的な人工透析センター



ゆったりとした特別室



廊下が交差する部分に位置し、見晴らしのいいナースステーション



24時間対応で、広々とした院内保育園



早期の社会復帰を可能にする日帰り手術センター

診療科目は19科と、ほとんどすべての疾病への対応が可能。外科や循環器科などで行っている2.5次救急、“がん難民”を出さないための総合的ながん治療、循環器科と連動した高度な心臓治療、県内初の人工関節センターによるテーラーメイドの人工関節置換手術が特徴だ。

治療以外にも、医師や看護師らによる無料の「公開医療講座」を毎月10回以上、市内外で開催し、地域住民に対して予防医療の重要性を啓発。これまでに約2万8000人が参加したという。

今井範之事務長は「地域医療への貢献、職員

への接遇教育、患者や家族からの物品の受け取り禁止などを通し、地域の信頼を得、地域に利益を還元できる病院を目指しています」と言う。

職員にも配慮を怠らない。看護師には働きやすい職場環境づくりの一環として、院内に24時間の保育園や病後児保育園、病院近くには寮を整備。教育とサポートも充実している。法人会員になっている病院近くのスポーツセンターは、職員誰もが利用できる。開院から5年。同病院は鎌ヶ谷のみならず、拡大する医療ニーズに対応し、「千葉県西部のメディカルセンター」へと進化しようとしている。

「相互作用で治す」姿勢と環境の調和

③⑧ ナビタスクリニック立川 (東京都立川市)



入り口。同じフロアには薬局や歯科診療所、保育所がある。3階には服飾や雑貨を扱う店舗が複数入る

「まずは親しみやすさ。といっても、医療機関ですから。ちゃぶ台が置いてある居間とは違う。清潔感も重要。通常なら、真っ白で、床はリノリウム、消毒薬のにおいが漂っている。それでは無機質すぎる」——久住英二院長が語るように絶妙なバランスの上に立つ。それがナビタスクリニック立川の内装の特徴といえる。最終的なプランは内装業者・丹青社所属のデザイナーにアイデアを出してもらい、決めた。

クリニックはJR立川駅にある商業施設・「エキュート立川」4階にある。立川はJR中央線・青梅線・

南武線の3線が乗り入れるターミナル。1日に17万人が乗り降りし、50万人が行き交う。エキュート立川の建物は天然木を使っている。防火性を重視する駅舎では珍しい。丹青社はもともとエキュート立川の内装担当だった。

暖かみと清潔感があり、明るい。訪れた誰もがそんな印象を抱く。屋上緑化スペースに窓が面しているため、壁が少ない。ガラス窓が大きく、採光に優れている。圧迫感を感じない。

「立地の良さに尽きます」(久住氏)とはいうものの、^{けんそん}謙遜にしか聞こえない。外からエキュート、さ



内科診察室でモニターに向かう久住院長。平日の診療は夜9時まで



小児科診察室。子供たちに親しみやすい環境を演出



廊下。通常の医療機関よりゆったりしている



待合室。背後の窓から緑が見える。採光と開放感是十分



待合室の一角。楽し過ぎて呼ばれても診察室に入らない子供も



屋上緑化スペース。院内から眺めることも、外に出ることも可能

らにクリニックに至る外観の連続性にも細やかな配慮がうかがえる。

患者からのアンケートでも高評価だ。「病院っぽくない」「カフェみたい」といった言葉が並んでいる。久住氏も満足する出来栄だ。

小さな手直しはある。「複数の診察室があって分かりにくい」との要望に応え、ドアに大きく数字のスクリーンを張ったり、プレートを掛けたりして視認性を高めた。

職員の雇用満足度も高い。外が見える窓があるだけで開放感が得られる。ストレスを感じずに働け

る。患者から「きれいな病院ですね」と声を掛けてもらうことで意識も高まっている。

「10年もたてば、壁紙の張り替えなど手直しは必要になるでしょう。床にも軟らかい特殊な素材を使っているの、費用が心配(笑)。幸いたくさんの方に受診していただいていますから、まあ問題ないでしょう」(同前)

患者が病気を治す過程を補助する。久住氏は医師の仕事をそう表現する。患者は「お客さま」ではない。相互作用で一緒に治していく。そんな姿勢を支える環境がエキナカに存在する。